

## IV 学校研究

### 1 研究主題

自分の言葉で、思いや考えを伝え合うみずほっ子を目指して  
～言語能力の向上を図り、学びの質を高める～

### 2 主題設定の理由

令和5年度は、対話を通して、言語能力の向上を図り、関わり合いながら自分の言葉で伝え合うみずほっ子を目指し、国語科・算数科・社会科・理科を通して学校研究に取り組んだ。日々の授業の中で、教科の見方や考え方を働かせながら考えをもつ「input」・整理した情報を筋道立てて、自分の言葉で効果的に相手に表現する「output」に重点を置いて授業を行ってきた。また、2学期からは、単元デザインシートを活用し、単元のどの場面で、児童に学びを委ね、対話が生まれるかを考えてきた。その結果、児童の意識アンケートから、理由や根拠を示しながら自分の言葉で伝える意識の高まりが見られた。

しかし、学力調査等の結果から、複数の資料を関連付ける思考力や、読み取ったことを必要な条件を落とさずに、適切に表現する力が弱い傾向が見られた。そのことから、最終的に目指す『自分の言葉で、思いや考えを伝え合う』児童の育成がまだ充分とは言えないと感じた。

そこで、今年度は、児童に学びを委ねる自己決定を意識しながら、問題解決能力に直結する「言語能力の育成」に重点を置いていく。input（思考力）、output（表現力）の際に、児童の自己決定の場を確保することで、より効果的な対話を目指し、言語能力の向上を図る研究を進めていくこととする。また、これまで同様、考えを整理する1つの手段として当たり前になってきている、ICT 機器を効果的に活用し、言語能力の向上を図りたいと考えている。

そして、体力の向上と自己肯定感の向上との相関についても探っていきたい。

### 3 目指す児童像

令和6年度の学校研究で目指す児童像を以下のように考えた。

- ・自分の考えの形成のために、自分で学び方を選べる児童
- ・考えたことを自分の言葉で伝え合える児童
- ・課題解決に向けて、最後までやり遂げる児童

### 4 研究仮説

目指す児童像の実現に向け、以下の仮説を打ち立てた。

学び方の自己決定（個別最適な学び）と対話（協働的な学び）を両輪としつつ、教師が児童の実態に応じた手立てをとることで、自分の言葉で思いや考えを伝え合うことができる児童が育つであろう。

## 5 具体的な取組

仮説を実証するに当たり、目指す児童像の実現に向けた取組を以下のように考えた。

🔗 基盤づくり…学力の素地となる語彙力や計算技能等を確実に定着させる。家庭学習を習慣化させる。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な朝自習やドリルタイム</li> <li>文法指導・漢検/英検指導</li> <li>100マス計算・活用問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読カード</li> <li>・各教科ドリルノート</li> <li>・生活チェックカード</li> </ul>
---	--

🔗 授業づくり…児童が、授業の中で、課題に対する思いや考えを持てるようにする。児童が、授業の中で思いや考えを表現できるようにする。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元デザインシートの活用</li> <li>・対話タイムの吟味 目的・場面・形態</li> <li>・相手意識を持った対話の促進 引き出しワード（聞き手） クエスチョン発表（話し手）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師のファシリテーション 意図的指名 深める発問 キーワードを焦点化した板書 活用/適用題による習熟&amp;定着</li> <li>・対話/学びのふり返り</li> </ul>
--	---

## 6 研究の検証方法

以下の通りに検証方法を設定する。

- ①NRT・QU・学期末テスト・市学力テスト・自己肯定感アンケート等の結果の分析
- ②学習に関する児童アンケートの分析
- ③振り返りや単元の終末におけるまなびいレポートの変容

## 7 研究組織

部会名	取組内容	メンバー
研究推進	研究方針の提案 指導案の提案・検討	教頭・松本・大山・上杉
授業力向上	模擬授業&整理会運営 相互参観授業 研修支援	大山・品川・福本
環境整備	朝自習&ドリルタイム 生活チェック	福本・石森・鯉田
集計・分析	学力調査の集計&分析	松本・各学担
検証	取組の検証 進捗状況の確認	上杉・高井

